

வணக்கம்

スリランカ通信 No.2

平成 29 年度青年海外協力隊

和田さとみ

環境教育



和田さとみ

岐阜県民のみなさん、வணக்கம்! (ヴァナツカム=こんにちは) 和田さとみです。9月に入れども、まだまだ暑い日々が続いているのでしょうか。

私はというと、8月22日にタミル語の語学訓練を終え、現在、任地である東部パッティカロアという地区にいます。日本からはちょっと近づきました。日本のようにインフラが整っていないので、任地まで9時間かかりました。コロンボからパッティカロアまでは、約318km、岐阜市から神奈川の箱根市までの距離とだいたい同じです。道路や交通機関が整っているという日本の当たり前は、世界の当たり前ではないことを実感しました。



まるで「こんな所に日本人」状態

私の任地である東部州パッティカロアは、2004年に起きたスマトラ沖地震の影響を大きく受けた地です。また、タミル族とシンハラ族による内戦により、しばらくの間、限られた人間しか出入りできない閉塞の地でした、2009年に内戦は終結し、復興がようやく始まったものの、国際協力の手がこの地に入ったのはつい4年前の話。パッティカロア地区の協力隊は私で4人目だそうです。ここでは日本人が珍しいので、町のどこへ行ってもよく声をかけられます。ここは、何となく岐阜みたいで、過ごしやすい雰囲気です。

スリランカ地方中都市:パッティカロア県

- ①人口 … 92,330 人 (岐阜市総人口の約2割強)
- ②言語 … タミル語(9割がタミル人) + 連結語の英語
- ③宗教 … ヒンドゥー教 6割、イスラム教2割、キリスト教1割、仏教1割
- ④主要産物 … 魚、米、カシュナッツ など

パッティカロアってどんなところ？

パッティカロアの象徴:時計台



ここでは、牛や山羊も歩行者
この子たちはどこから来たのか…



ラグーン(潟)沿は、のどかな風景



遠くにみえるのが JICA の支援によって
架けられた カレディ橋

何のボランティアをしているの？

私は「環境教育」という職種で、バットिकाロア県に派遣されています。私の職場は、バットिकाロア県バットिकाロア市役所です。ここで、現地のゴミ処理問題に関わる仕事をします。日本で言うと環境衛生課に所属です。現地の人々は、わたしのつたないタミル語をじっくり聴いて、どんな質問にも親切に答えてくれます。



←向かって左から
直属の上司① タナジェアンさん
直属の上司② タバラジャさん
直近の同僚 ラジャニさん



私の仕事内容

ここで私に求められている仕事は大きく二つ。一つ目は学校教育に関わる仕事です。バットिकाロア県内の学校の子どもたちに環境問題やゴミ分別に関する啓発活動(授業やワークショップ)をすること。カリキュラムを作成するなど現地のニーズに合わせて活動します。二つ目は、地域住民に関わる仕事:ゴミ収集ルートの点検・改善、住民のゴミに対する意識啓発活動(再利用、リサイクルに対する意識向上)どんなことができるか、まずは現状調査から進めています。

スリランカの豆知識 : 標識



日本では考えられないですが、同じ国の中で3つの言語が存在する多民族国家スリランカ。町の至る所にある道路標識は、

- ①第1言語 シンハラ語
 - ②第2言語 タミル語
 - ③連結語 英語(英語は準公用語)
- の順で表示するように法律で決まっています。

国際協力に興味のある人は 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)

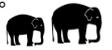
<https://www.jica.go.jp/> をチェック!ではNo.3で会いましょう!

私がこの仕事、協力隊を選んだ理由

語学はその土地の文化の一部であり、そこに住まう人々の歴史や背景があつてこそだと思っています。私は幼少期から英語は好きでしたが、それ以上に教科書に出てくる海外の人々の生活に深い興味がありました。本当に学校の教科書に書いてある通りの暮らしを現地の人がしているのか、実際に確かめてみたい、と思っていました。



私は大学卒業後の3年間は社会人をしていましたが、自分が持っているほんの少しの海外経験をもとに26歳の時、教員という仕事を選び、今日までの十数年間、語学(英語)に関わる仕事に携わってきましたが、5年程前から国際理解教育やフェアトレード(公正貿易)、環境に関わる仕事外でのNGO活動を通し、私自身も地球規模の問題、世界の現状を実際に見てみたい、とこれまで以上に強く願うようになりました。



JICA青年海外協力隊ボランティアの職種はなんと120種以上!その中から自分の希望職種を選びます。私は日本語教師の資格を持っていたので、実は協力隊志望職種は募集直前まで海外で日本語を教える「日本語教育」でした。しかしながら仕事内容が書いてある要請一覧を読んでもどうもじっくりこない...そこで私はこれまでの考えを一掃して、頭の中を空っぽの状態にしました。そんなある週末、全く考えもしなかった「環境教育」という職種のJICA顧問の先生の話聞く機会がありました。環境教育は、一番身近だけど私の中でホントは見えて見ぬふりしたいゴミの問題、その解決に携わる仕事でした。ゴミ問題は地球環境に関わる重大なことだと分かっている...でも汚いことには目を瞑っていたい...そんな考えの私でした。しかし顧問の先生の話聞くにつれ、ここに人々の生活、文化や考えの根源があると思いました。「これだ」と直感が働きました。日本のように自分の身の回りを掃除する大切さや習慣、学校での掃除活動、ゴミを細かく分別する仕組みや環境に対する意識、これらは途上国ではまだまだ...環境についてそれほど詳しいわけではありませんが、日本での経験がある!それだけでこの職を選びました。人生は一度きり、これまでと全く違うことに挑戦するのもまたおもしろいものかな、と。



人生には様々なタイミングがありますが、私は長年かけて幸いなことに様々な条件が整い、ここに来ることができました。これも家族や職場の同僚や生徒、NGO仲間や友人のお陰です。私の経験が皆さんの人生の一部に役立てば幸いです。

Satomi Wada

